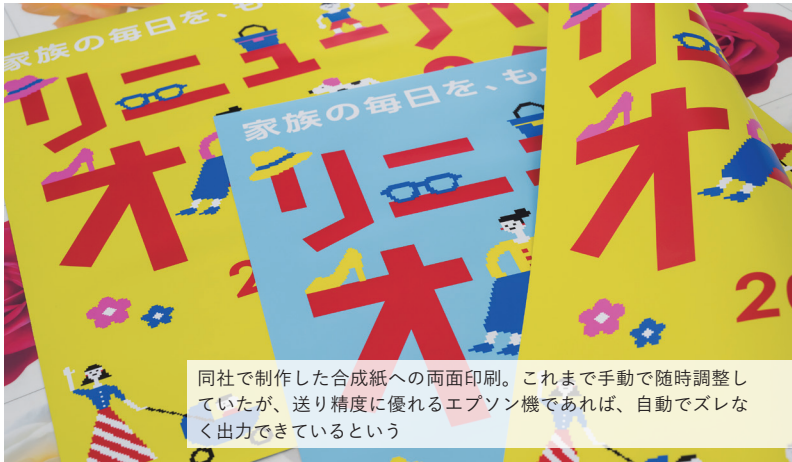


すでに 20 台超の IJP を保有する出力企業が SC-S80650 の新設を必須としたワケとは？

兵庫県丹波市に本社工場を構えるアシダコーポレーションは、20 台超のインクジェットプリンター（IJP）を筆頭に、マルチカッティングマシンやフィニッシングカッター、レーザーカッター（布地用）などハイエンド加工機も取り揃え、さまざまなオーダーに対応可能な出力生産体制を整えている。

小ロット多品目への柔軟対応を強みとする同社では、本社工場と隣接の別棟工場に、ロールとフラットベッド双方の UV 機、バリエーション豊かな溶剤機、昇華ダイレクトプリンターといった IJP 群が軒を連ねる。3 棟目にあたる資材倉庫には、毎月輸入するターポリン 300 本をはじめとした IJP 用メディアが並び、商社倉庫に匹敵するストックを常時保有している。

昨年の設備投資では、エプソン販売が展開する IJP 「SureColor シリーズ」から、エコソルベントインク搭載の高画質モデル「SC-S80650」を導入。同機は、新開発の「UltraChrome GS3 インク with RED」を搭載し、従来のグレー・オレンジにレッドインクも加え、一層の広色域と鮮やかな色彩表現を実現している。高画質もさることながら、メディア送り・ロール駆動モーターを一新し、紙送りの正確性と安定性を飛躍。さらに、イニシャル・ランニングコストともに、トッ



同社で制作した合成紙への両面印刷。これまで手動で随時調整していたが、送り精度に優れるエプソン機であれば、自動でズレなく出力できているという

プクラスの低価格帯を達成したほか、溶剤インクのネックである乾燥時間も短縮できると評価する声も多く、現行溶剤機で最高峰と支持するユーザーが多数を占める。

新たに、エプソン純正ソフトウェア RIP・Epson Edge Print と測色器の提供もスタートした「SC-S80650」における最新の“現場の声”として、アシダコーポレーションでの活用事例を追った。

SC-S80650 だけにしか表現できない特色は仕事量の増減にまで直結する



代表取締役・芦田喜三郎氏

——縫製業から IJP 出力センターへ

創業は 1966 年。当時は熟練した縫製技術を武器に、オーダーメイドによるツナギ服の生産を主力事業とした。十数台保有するミシンを活かし、セールスプロモーション（SP）用途の椅子カバーやステッカーなどのグッズ・オリジナルユニフォームと次第に領域を広げ、のぼ

り・横断幕・ハッピー・ピットシャツと多様な商品アイテムを取り扱うようになっていく。これら SP 関連の仕事から派生して、ターポリンや塩ビ出力による屋外用のサイングラフィック領域にまで業容を拡張。現在ではターポリン、シート、パネル、のぼりの IJP 出力をメインに取り扱っている。

そもそもは、6 年ほど前に広告代理店から、当社が得意とする昇華と縫製によるパチンコ店の「椅子カバー」のオーダーをもらったことに始まる。これを境にのぼり・バナーと店舗装飾の全般を引き受けるようになり、当時は人気アニメとタイアップしたパチンコ機が全盛で、注文書の FAX が社内に山積みされていたことを鮮明に覚えている。

——経営戦略の要となる先行投資

当社の成長を支えるのは他社に先ん

じた先行投資。人手不足を見据えた施策は 4 年前から着手し、新卒採用を増やすなど社員の増強に努めてきた。設備投資は大幅に IJP を刷新した前期の 1 億 6000 万円を例外としても、年間平均で 4000 万円以上は常に投げ、効率・省力化を図っていく方針だ。

——エプソン機の導入背景と将来性

SC-S80650 は、レッドやオレンジインクを搭載し、既設機には出せない特色を再現可能なことから、導入を決めた。これまで苦心してきたオレンジやグリーン系の企業カラーを難く表現できる点は大きい。導入直前、出力サンプルの提出で、顧客が求める色を出せずに案件を失ったのは悔やまれる。価格競争が激しい塩ビ出力には、コストカットを迫られた IJP をメインに据えてきたものの、今後は SC-S80650 の活躍も

出力現場の効率化に外せないマシン

——ウィンドウ装飾の出力で活躍

SC-S80650 では、白インクを活用して透明メディアに出力する機会が 50% 以上を占める。これまで稼働してきた他メーカーの IJP に比べ、印刷スピードが格段に早く、かつ白も鮮やかに表現できており、大変満足している。成果物はショッピングモールなどのウィンドウ装飾に用いられている。

——両面印刷も自動化できる送り精度

現場で助けられている点としては、メディアの送り精度が抜群に安定しており、巻きの状態によって左右されないことが挙げられる。メディアの初期設定さえ、しっかりと入力しておけば、放置しておいても出力物がキレイに仕上がるイメージ。送りが安定していることから、合成紙の両面印刷に活用するような事例もある。

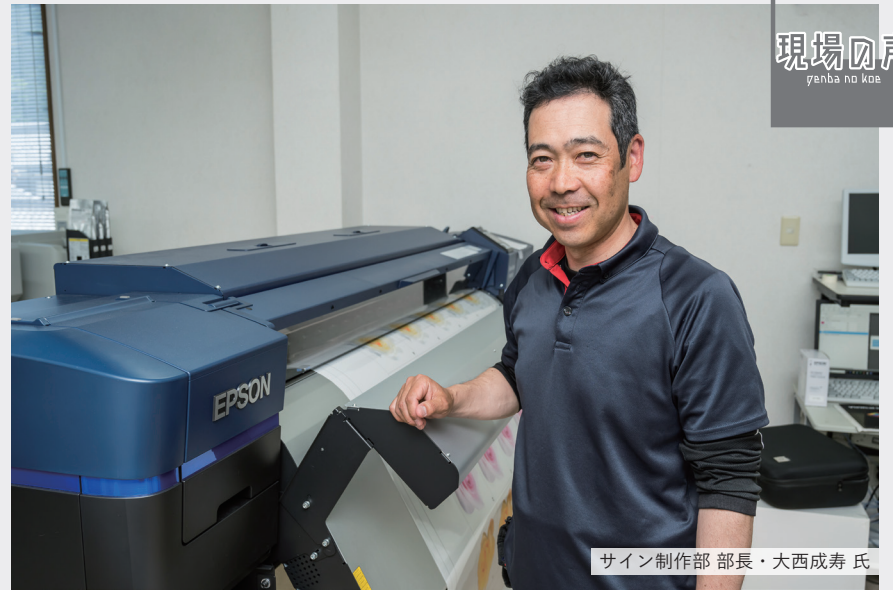
従来機では、表裏で印刷面のズレが出ないように手動で調整していたが、自動でズレなく印刷できる点に非常に助けられている。

欠かせないだろう。

現在、IJP 出力で他社に勝るには、インクやメディアを大量購入して材料費を抑え、かつ納期短縮と品質向上に努めていくことに尽きる。その前提の上、当社では価格・納期・品質の 3 つの選択肢の中から、顧客ニーズに合わせて IJP を使い分けている。IJP はメーカーによって同色でも色味に違いが生じるため、



SC-S80650 が稼働する本社工場棟 2 階



サイン制作部 部長・大西成寿氏

——測色器の活用で更なる効率化

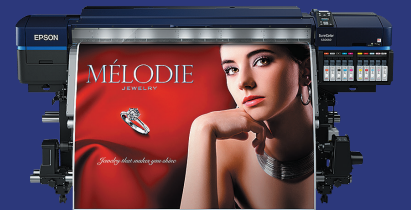
色指定の厳しい案件では、エプソンの測色器を用いることで、大幅な作業時間の短縮が図れている。これまでは、目視による手作業でサンプルのチャート表を印刷し、ケースによっては調整を何度も繰り返していたものが、測色器をワンクリックするだけで色合わせが可能になり、1 時間以上のロスを削減できている。その精度も高く、手動での補正は全くとっていいほど不要だ。



測色器による色合わせシーン

案件ごとに同じプリンターで出力しなければならぬ。これは仕方ないとは言え、効率的ではなく、IJP によっては相性の悪いメディアもある。SC-S80650 はプリンターの稼働安定性はもとより、新たに測色器も加わったことから、1 機種で全方向の顧客ニーズをカバーできる可能性も秘める。実現すれば、プリンターの使い分けが不要となり、当社の掲げる効率・省力化にも大きく貢献するメイン機種となるだろう。

近年は、直接取引に比べ、効率よく仕事を回せる代理店経由の案件が主力になっている。と言うのも、出力業務では手離れよく仕事を進め、プリンターの稼働時間を一定水準以上に保つ必要がある。当然、代理店の色校正は厳しいが、SC-S80650 を導入したことにより、そういった面での懸念も解消されたと言える。



SC-S80650

インク種別／エコソルベント
出力解像度／最大 1440 × 1440dpi
出力速度／最速 18.2㎡/h
(720 × 720dpi 6pass 出力時)
最大印字幅 1616mm
インク色数／CMYK、LCLM、グレー、オレンジ、レッド、ホワイト、またはメタリックシルバー
外形寸法／W2620 × D880 × H1338mm (最小時)
重量／284kg (インクカートリッジ含まず)
標準価格／¥2,200,000 (税別)

【エプソンホームページ】
epson.jp/surecolor/

【お問い合わせ先】
プリンター購入ガイドインフォメーション
050-3155-8100